

令和6年度 調布市立石原小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
(1) 根気よく学ぶ子…主体的に学ぶ意欲をもち、自らを高めようとする。 (2) なかよく助け合う子…自分と他者の生命や個性を尊重し、人間関係を築く。 (3) 明るく元気な子…心身を鍛え、前向きに生活する。	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
確かな学力を付け、夢と希望をもって心豊かに生きていく子供を育てることを目指す。そのために学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進めるようにする。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	本校では、様々な課題をもつ児童が複数在籍している。そのため、「子どものために」という考え方を職員全員がもち、職員同士のコミュニケーションを欠かさず、児童一人一人の情報を共有して指導に当たることが大切である。学力の定着に課題があるため、教師は子どもたちの学ぶ意欲を大切に、ねらいを明確にした学習指導を行っていく必要がある。さらに、対話的活動を通して自らの考えを広げ深めたり、新たな問題を見いだして解決したりする授業改善に取り組む。保護者や地域との情報共有も大切にしていこう。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	- 考えを表現する際の語彙力。 - 新しく読む文章を的確に理解する読解力。 - 自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることを通して、自分の考えを広げ、深めるような対話力。	- 国語辞典・漢字辞典・タブレットなどを身近に置き、分からない漢字や語句はすぐに調べるよう指導する。 - 読み取りの学習では、興味をもって学習に取り組めるよう教師側からの一方的な学習課題提示ではなく、児童側に立った学習課題を設定する。 - 話型を提示して、筋道立てて話すよう指導する。その中で、丁寧な言葉を用いるなど、場に応じた適切な言葉遣いで話ができるように指導する。
社会	- 授業の内容と日常生活に繋がりを見だし、自らの経験から課題を設定し、様々な解決方法を自ら考え、課題を解決する能力。 - 自分にとって必要な資料を自ら集め、それを活用する能力。	- 地図や写真を活用したり、自分の住む地域の図を自分で描いて名称を書き入れたりする体験的な活動を繰り返し行うことで、基本的な知識の定着を図る。 - 資料から、情報を正確に読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする力が不十分なため、資料を活用する場面を意識的に多く取り入れる。また、資料の読み方を指導したり、資料から自分なりの考えや疑問をもたせたりする活動を設定する。
算数	- 基本的・基礎的な四則計算技能の定着。 - 図や式、言葉を用いながら課題を解決し、学習したことを自分自身で整理してノートにまとめる能力。 - 児童同士で課題を見付け、話し合い問題解決する能力。	- 習熟度別指導・ＴＴ指導により、個に応じた学習を展開する。基礎・基本の定着を図るために、授業の開始時、四則計算の練習問題に取り組む時間を設定し、継続的に取り組ませる。必要に応じて復習を行い、繰り返し指導する。 - 学習した内容をノートで確認できるよう、板書計画やノート計画をたてる。図や式、言葉を用いながら自分の考えを明確に表現できるようノート指導に重点を置く。 - 児童相互で考えを深めていけるよう、課題に対する検討・交流の時間を確保し、多様な意見を交流させて思考を深めることができるようにする。
理科	- 実験や観察を正しく行い予想や仮説をもとに解決の方法を考え、問題を解決する能力。 - 学んだことを学習や生活に生かすことのできる能力。	- 観察や実験を表やグラフに表して傾向を読み取って考えたり、実験結果を共有したりする場を設定する。 - 考察を行う際には理科的用語ではどう表現するのか例文を挙げて、論理的な表現方法に慣れさせていく。 - ビデオや写真などの資料やＩＣＴを活用し、ノートやプリントにまとめることを通して、基礎的事項の理解と定着を図る。
生活	- 身近な人々や地域にすすんで関わり、自然を大切にしたり、生活を豊かにしたりしようとする態度。 - 身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員としてすすんで適切に行動しようとする能力。 - 自分のよさや可能性を生かして、意欲や自信をもって生活しようとする態度。	- 鉢植えで植物を育てることや地域の自然等と触れ合う活動など、実物に触れる機会を多く設定し、自然や人と関わる体験ができるようにする。 - 気付いたことを互いに伝え合う場を設けることで、学習対象との関わりに気付くとともに、自分自身のよさをさらに深めていけるようにする。

音楽	・思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりする能力。 ・思いや意図を表現できる技能の定着。	・表現に対する自己の思いや意図、音楽を聴いて聴き取ったことや感じ取ったことなどを、友達とコミュニケーションを図る場面を設定し、共有したり共感したりすることで、意欲が高まるようにする。 ・楽しく基本学習を継続することで技能が定着できるようにする。
図画工作	・課題に対して、児童自身が思いをもち、学んだことを生かして形にする能力。 ・表現や鑑賞の活動を通し、他者と自分の違いを認め、それぞれのよさを感じることが出来る資質・能力。	・児童が関心をもちやすく、めあてを実感できる題材設定をする。 ・指導者が学習の系統性を意識し、児童が既習事項を活用して表現を深めていけるようにする。 ・毎時間振り返りの時間を設け、児童自身ができたこと、学んだことを実感できるようにする。
家庭科	・裁縫道具や調理器具の名称を覚え、用途に応じた安全な使い方が分かり、実践を通して自立に向かう準備ができる能力。 ・健康によりよく生きることを目指し、献立の立て方や栄養、衣類の選び方、計画的な金銭の使い方を学びながら、日常生活の楽しさに関心に向けられる資質・能力。	・各児童の置かれている生活状況や、入学までの養育環境を配慮して学習の計画を立てる。 ・児童の理解度にあった課題を精選し実践できるようにする。火の使用やミシン等の操作では、規律をしっかり守らせるとともに、必要に応じてT・Tを取り入れる。 ・学習の振り返りでは、実生活に生かせるような視点をもつことができるようにする。
体育	・体力向上に向けて、自分で課題を設定したり、運動を工夫したりできる資質・能力。 ・授業で学んだことを休み時間や放課後遊びなどでも取り組み、生涯スポーツにつなげていくことができる資質・能力。	・体育的行事を通して、運動の魅力を感じられるよう促す。 ・持久力向上のため、持久走の機会を設ける。その際、低・中・高学年ごとの学習カードを用い、児童が意欲をもって運動できるようにする。持久走大会を行い、取組が終了した際は、努力賞を出し、児童の頑張りを称賛して意欲向上を図る。 ・授業後の振り返りを大切にし、児童の達成感や体を動かす面白さに気付けるようにする。体育の楽しさを味わわせ、運動に親しむ児童を増やす。
外国語	・外国語を読むこと、書くことに慣れ親しむとともに、コミュニケーションに活用できる基礎的な技能。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに合わせて、聞いたり話したり、読んだり書いたりして、主体的に自分の考えや気持ちなどを伝え合う能力。 ・外国語を通して各国の文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度。	・単元のはじめに単元の最終活動を児童に示し、見通しをもって学習に取り組めるようガイダンス機能を活用する。 ・外国語を使う場面や状況に必然性がもてる工夫をし、児童が積極的に外国語を使ってコミュニケーションをとろうと思えるようにする。 ・聞く、話す、読む、書く、の言語活動をバランスよく組み合わせ、外国語を使うために基礎的な技能が身に付くようにする。 ・単語や文の練習をする際、単なる繰り返し発話するという活動にならないようなゲームを取り入れながら、行うようにする。
道徳科	・自己理解を深め、自己を肯定的に受けとめようとする心及び自己指導力を育み、自らの意志によって正しく行動しようとする態度。 ・自他の生命の尊厳を感じとり、生命あるすべてのものを大切にしようとする心情。	・児童の発達の段階や特性等を考慮し、問題解決的な学習、道徳的行為に関する具体的な場面学習を積極的に取り入れ、問題に対する自分なりの考えや解決方法を導き出せるようにする。 ・心に響く資料を選定する。 ・「いのちと心の教育月間」で、家庭・地域にも生命尊重の大切さを呼びかける。 ・校内研究を通して、週一時間の学びを実生活にいかせるようにする。
外国語活動	・言語や文化、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ能力。 ・身近で簡単な事柄について、外国語で伝え合う力の素地。 ・外国語を通して言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	・チャンツや歌などを通して繰り返し音声を聞いたり、楽しみながら発話したりすることで、すすんで外国語に慣れ親しもうという思いをもつことができるようにする。 ・外国語を使う必然性を児童に分かりやすく提示する。 ・多くの友達とコミュニケーションを取ることを何度も経験することで、コミュニケーションを図る楽しさを味わい、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。